



Ciaran Martinは、英国の世界をリードするNational Cyber Security Centerを設立し、その存在の最初の4年間を率いました。現在、2020年8月末にNCSCでの役割を辞任した後、マーティンはオックスフォード大学のプラバトニック政府学校で公的機関の管理の実践教授の地位を保持し、NATOおよび多くの民間組織にサイバーに関する助言を行っています。セキュリティ戦略。

マーティンが6年半の間理事会メンバーを務めたGCHQの一部であるNCSCは、サイバーセキュリティの公的機関の中で世界のリーダーと見なされています。国際電気通信連合は、NCSCの取り組みの結果、現在、英国をサイバーセキュリティの第1位の国としてランク付けしています。

Topics

- Cyber Security
- Digital
- Leadership
- Security
- Strategy
- Technology

マーティンのリーダーシップの下で、NCSCは、2017年のNHSに対するいわゆるWannacry攻撃を含む、英国に対する2,000を超える全国的に重要なサイバー攻撃の管理を主導しました。彼は、政府に次のように呼びかけるように促した検出作業を主導しました。初めて、ロシア、中国、イラン、北朝鮮からのサイバー攻撃。彼は、NCSCがサイバーセキュリティに関する政府とビジネスとの関係を変革するのを支援しました。2018年、CBIのサイバーセキュリティ会議の基調講演で、彼は企業のリーダーが理解する必要のある5つの重要な質問を含む取締役会ツールキットを発表しました。彼はグローバルなサイバーセキュリティリーダーとして、5大陸の30か国以上を旅し、政府、国家安全保障、企業のリーダーとのパートナーシップを構築しました。NCSCで、彼は英国の主要な企業の取締役会のゲストとして非常に人気がありました。

マーティンは、優れたサイバーセキュリティの本質は、複雑な主題をわかりやすく説明し、スペシャリストがリーダーシップを発揮する方法と言語を見つけることであると考えています。新しいテクノロジーとテクノロジープラットフォーム(5G、モノのインターネット、クオンタム)が新しい現実になるにつれて、それはますます重要になります。

マーティンは英国政府の23年のベテランでもあり、5人の首相と3つの政党のさまざまな上級大臣と直接協力しています。彼は大蔵省、内閣府、GCHQで上級職を歴任しました。彼は内閣秘書室の長であり、スコットランド独立住民投票の合意された条件と規則につながる公式交渉を主導しました。

2020年、キアランマーティンは女王陛下からCBに任命され、サイバーセキュリティの取り組みが認められて国内外でさまざまな賞を受賞しています。